

韓国環境部プレスリリース 2019年10月22日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

## 江原道鉄原郡遠南面竹垈里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出（野生いのしし12例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1067030&menuId=286>

### 【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道鉄原郡遠南面竹垈里の民統線内のイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと10月22日明らかにした。

10月19日午後6時頃、軍部隊員が民間人統制線補給路脇の排水路に腐敗が進行したへい死体を発見し、国立環境科学院と漣川郡に申告した。

日没時間帯で現場への接近が難しかったため、防疫措置後、翌日、軍部隊と科学院が一緒に試料採取して死体を埋却後、試料を国立環境科学院に移送した。

※試料採取後、標準行動マニュアルに沿って埋却後の作業者の消毒及び周辺の防疫措置

科学院は10月21日午後11時30分頃、へい死体からアフリカ豚コレラウイルスを確認した。これで現在まで確認されたアフリカ豚コレラは計12件に増えた。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今回発見された地点は10月12日と10月16日に確認された榛峴里と竹垈里の中間くらいに位置し、既に設置された感染地域の遮断用電気フェンス内に位置する」として、「今回の検出で追加的な電気フェンス設置は必要ないが軍部隊と協力して榛峴里と竹垈里一帯のへい死体を迅速に搜索して除去できるようにする予定である」と述べた。

(以上)